

## 2013 年度ドクター研究員研究活動実績報告書

|   |       |
|---|-------|
| 氏名  | 木戸 紗織 |
| (研究テーマ名)<br>多言語社会ルクセンブルクの教会における言語の使い分けについて  |       |
| (研究活動実績)<br><p>ルクセンブルクの教会ではルクセンブルク語、ドイツ語、フランス語が使用されているが、ルクセンブルク語とドイツ語が必ず他の言語と併用されるのに対し、フランス語は他の言語と併用される場合もあれば単独で使用される場合もあることが確認された。そこで、教会に限らず社会全体におけるフランス語の位置付けについて分析したところ、ルクセンブルクではフランス語が高いprestigeを有し、ルクセンブルク人がフランス語に対して好意的な言語観を有していることが明らかとなった。この結果をまとめたものが、以下の論文である。この言語観が、教会におけるフランス語と他の二言語の違いにつながっていると考えられる。</p> <p>&lt;論文&gt;<br/>「ルクセンブルクにおけるフランス語使用拡大の背景 -外国人労働者の増加とルクセンブルク人の言語観-」<br/>大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター『都市文化研究』第16号(2014年3月)<br/>さらに、ドクター研究員プロジェクト「ルクセンブルク学研究会」において、昨年度提出した博士論文をもとに発表を行った。また、その機関紙に下記の書評を執筆した。</p> <p>&lt;発表&gt;<br/>「多言語社会における言語選択と領域(domain)の関係—ルクセンブルクの教会を事例として—」<br/>第13回ルクセンブルク学研究会、立命館大学朱雀キャンパス(2013年7月27日)</p> <p>&lt;書評&gt;<br/>「田原憲和著『ルクセンブルク語入門』」<br/>ルクセンブルク学研究会『ルクセンブルク学研究』第4号(2014年12月)</p> |       |